

12月の中小企業月次景況調査

〔平成30年12月末現在〕

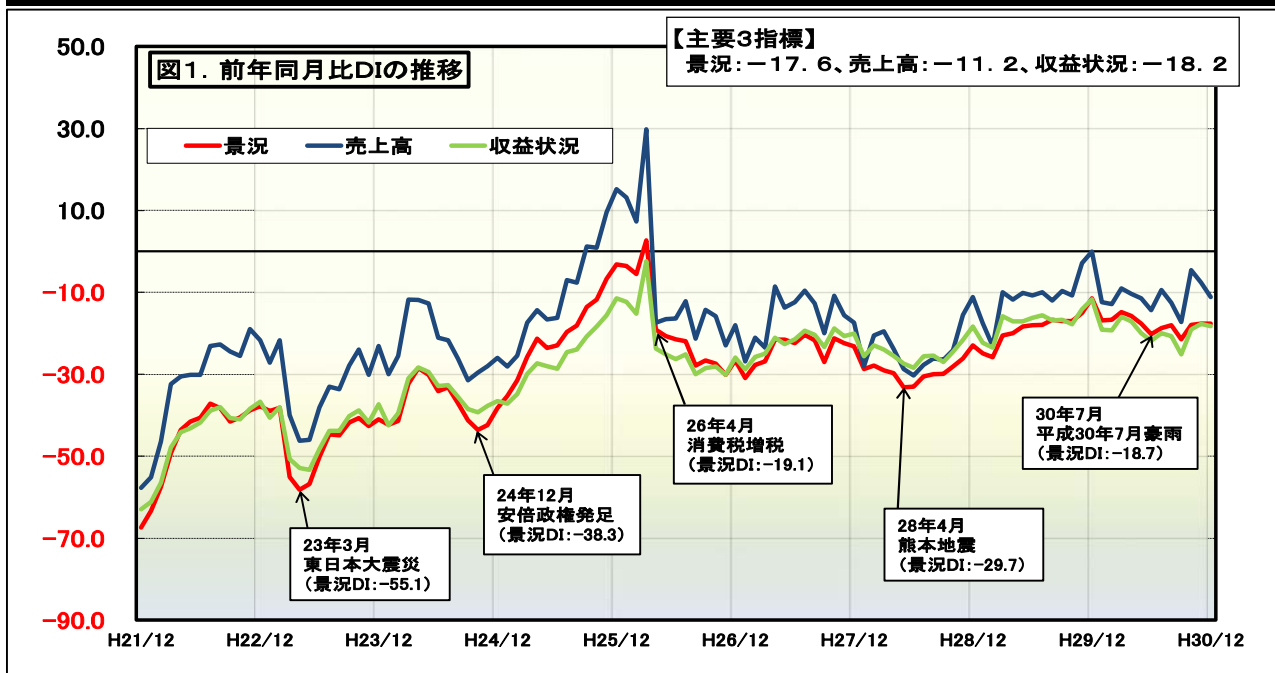


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成31年1月23日発表

◎12月のDIは、9指標中7指標が悪化。主要3指標については、景況が横ばいであったが、売上高と収益状況は悪化した。

- 当月は、製造業においては、原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力が引き続き強く、主要3指標が全て悪化した。
- 非製造業においては、消費者の節約志向が強まっている環境下において暖冬となったことで季節商品の販売が低迷し、売上高DIが悪化した。特に、年末商戦が昨年度に比べ低調であったとの声が多く聞かれた。
- 人手不足の慢性化は一層深刻な状況となっており、特に運送業の人手不足が運送コスト増加に繋がり、出荷や納期に影響しているとの声もあった。
- 消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も多く、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)
全国中小企業団体中央会
担当：政策推進部
TEL 03-3523-4902
<https://www.chuokai.or.jp>

12月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 12月のD Iは、9指標中7指標が前月比で悪化。
2. 主要3D Iについては、特に製造業の大幅な悪化が影響し、景況は前月同値であったものの、売上高が3.5ポイント悪化。収益状況についても0.5ポイント悪化。
3. 雇用人員D Iは前月比0.5ポイント悪化の-8.8ポイント。厳しい雇用環境が続いており、広範な業種において人手不足が慢性化している。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

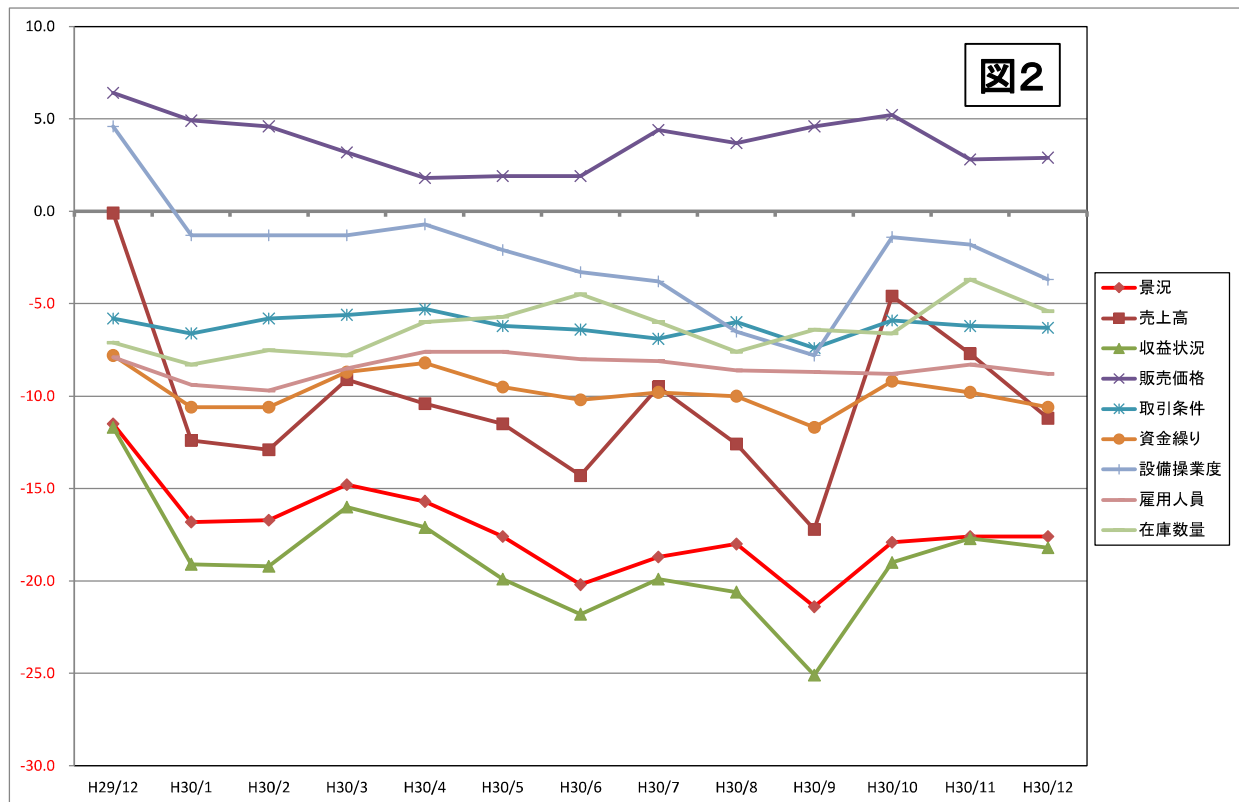


表1	H29 12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
景況	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9	-17.6	-17.6	0.0
売上高	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6	-7.7	-11.2	-3.5
収益状況	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-19.0	-17.7	-18.2	-0.5
販売価格	6.4	4.9	4.6	3.2	1.8	1.9	1.9	4.4	3.7	4.6	5.2	2.8	2.9	0.1
取引条件	-5.8	-6.6	-5.8	-5.6	-5.3	-6.2	-6.4	-6.9	-6.0	-7.4	-5.9	-6.2	-6.3	-0.1
資金繰り	-7.8	-10.6	-10.6	-8.7	-8.2	-9.5	-10.2	-9.8	-10.0	-11.7	-9.2	-9.8	-10.6	-0.8
設備操業度	4.6	-1.3	-1.3	-1.3	-0.7	-2.1	-3.3	-3.8	-6.5	-7.8	-1.4	-1.8	-3.7	-1.9
雇用人員	-7.9	-9.4	-9.7	-8.5	-7.6	-7.6	-8.0	-8.1	-8.6	-8.7	-8.8	-8.3	-8.8	-0.5
在庫数量	-7.1	-8.3	-7.5	-7.8	-6.0	-5.7	-4.5	-6.0	-7.6	-6.4	-6.6	-3.7	-5.4	-1.7

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 主要3指標は、景況が横ばいとなったものの、売上高と収益状況が悪化。その他指標については、販売価格を除く全指標が悪化した。
2. 暖冬による季節商品販売の低迷も景況感を下押ししたほか、消費者の節約志向が強まっており、消費動向の変化を指摘する声が多く聞かれた。
3. 原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力は引き続き強く、人手不足の慢性化も一層深刻な状況となっている。
4. 運送コストの増加が出荷や納期にまで影響しているとの声も多数あった。

《主な報告内容》

◇暖冬と消費者行動の変化

- ・比較的穏やかな天候が続き、ボーナスの平均支給額も昨年より多いと聞いていたが、消費者の財布のひもは意外に固く、特に年末商戦では期待したほどの伸びはなかった。(北海道／飲料)
- ・商店街では、暖冬とあって、衣料品の冬物の出足が今ひとつの感があった。消費者に買い控えの傾向が見られる。(秋田県／商店街)
- ・賞与や帰省客効果も数日間だけであった。消費者は必要なもののみ購入する傾向にあり、支出引き締めが感じられる。(福島県／共同店舗)
- ・消費者の節約志向は相変わらず続いており、衣料品の動きは総じて鈍い。(東京都／繊維)
- ・節約志向が高まったためか、クリスマスセール等が不発で売上高は落ち込んだ。(東京都／衣料品小売り)
- ・暖冬の影響もあり、ファッション関係を中心に、ボーナス、クリスマス、歳末セール等の盛り上げに欠け、全く低調で期待外れの12月だった。消費者動向の変化をつくづく実感する。(兵庫県／商店街)
- ・今年の消費業況は特にひどい惨状であり、食料品関係でも「とにかく悪い」という声を聞いた。12月は「売れる特別な月」ではなくなった。(香川県／商店街)

◇人手不足の深刻化

- ・円高基調による原材料価格の高騰、短納期要請、人手不足の状況が続く。人手不足は仕事の受注ができない状況。機械設備等の納品にいままでの2倍ほどの日数がかかり問題となっている。(群馬県／一般機器)
- ・好天が続き、入込客数・団体を含む宿泊客数とも順調に推移した。ただ、人手不足は宿泊業界も同様の課題となっており、施設により受客を抑制するケースもあった。(神奈川県／温泉旅館・ホテル)
- ・年末年始と仕事量は多いが、人手不足が未だに大きな問題になっている。その為に工程遅れが出ている。今後、今以上に深刻になっていくと思う。(神奈川県／空調設備工事)
- ・12月に入っても物流の流れは良く、受注件数が増加しているが、相変わらずドライバーが不足している状況が続いている。(岐阜県／軽運送業)
- ・人手不足を少しでも埋めようと、外国人技能実習生を採用しようという動きが出てきている。仕事はあるが人手が足りないので、仕事を受注できないという深刻な現状を表している。(和歌山県／金属製品製造)
- ・当月は通年損益の要と位置づけられる月であるが、臨時アルバイトさえ応募者がいない状況が続き、人員不足による売り損ないが多発した。業界にとって問題がますます深刻化してきている。(長崎県／食肉販売)

◇物流の課題

- ・各地域とも出荷が好調。反面、輸送力不足等により納期の設定が困難。(東京都／セメント製品製造)
- ・価格転嫁が出来ない上、更に運送費の高騰もあり、困っている。人手不足は深刻で、省力化・省人化・自動化の必要性は認識しているが、先行きが不透明なため、踏み出せない。(石川県／プラスチック製品製造)
- ・受注は来年3月末までは100%。中には生産できないため断っている会社もある。一方、運送需要が逼迫しており、製品が出荷できず困っている会社がある。(愛知県／配電盤)
- ・二段階、三段階の原材料、副資材の値上がり、売上高に対して徐々に影響。物流に係る経費は特に目立っており、業界として加工賃のアップを要望したいところではあるが思うようにいかない。(香川県／鍍金)
- ・原材料の値上げによる利益率の低下と売値の上昇によるロットの減少が景況を悪化させている。運送便の全体的な遅れにより、リードタイムが長期化。(大分県／広告)

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告(要旨)」等も参照。

1. 景 況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 17.6	▲ 17.6	0.0	不変	→
製造業	▲ 16.4	▲ 17.4	▲ 1.0	悪化	↘
非製造業	▲ 18.4	▲ 17.8	0.6	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	運輸業			
	5～10ポイント	印刷、その他の非製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	繊維工業、その他の製造業、卸売業			

表2. 業種別【景 況】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	30/12	前月比
全 体	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9	-17.6	-17.6	0.0
製 造 業	-7.4	-11.6	-13.4	-11.5	-12.4	-12.1	-16.1	-17.1	-15.4	-19.9	-16.1	-16.4	-17.4	-1.0
食料品	-19.1	-27.0	-29.8	-25.6	-27.2	-26.3	-30.1	-32.6	-32.3	-33.6	-32.1	-24.5	-23.8	0.7
繊維工業	-22.1	-27.0	-17.8	-20.7	-19.3	-19.3	-24.0	-27.5	-23.4	-33.9	-29.1	-26.9	-33.3	-6.4
木材・木製品	-21.1	-25.5	-28.1	-28.8	-28.7	-24.1	-23.9	-28.4	-24.8	-35.9	-23.5	-22.2	-22.4	-0.2
紙・紙加工品	-9.6	-14.3	-33.3	-16.7	-27.3	-33.3	-34.8	-42.9	-39.2	-42.8	-45.5	-47.3	-47.8	-0.5
印刷	-29.5	-29.5	-29.5	-30.1	-37.1	-46.7	-40.3	-43.5	-39.0	-45.9	-45.8	-52.5	-45.9	6.6
化学・ゴム	3.5	3.5	3.3	6.9	0.0	0.0	-3.4	-17.3	-6.9	-10.4	-17.3	-17.2	-13.8	3.4
窯業・土石製品	-14.8	-23.0	-32.1	-23.5	-16.4	-20.4	-25.2	-23.0	-23.4	-26.5	-13.5	-14.0	-16.4	-2.4
鉄鋼・金属	20.1	17.4	20.6	19.3	20.8	17.2	10.1	7.5	12.6	8.8	8.9	7.2	6.5	-0.7
一般機器	19.4	23.0	15.0	15.0	16.0	15.9	10.7	12.5	10.6	7.1	8.9	-0.9	2.7	3.6
電気機器	25.0	11.4	23.6	18.1	6.1	26.7	18.7	21.2	12.9	15.1	15.1	18.2	15.1	-3.1
輸送機器	2.4	7.5	2.4	2.5	-5.0	2.5	-7.3	2.4	0.0	2.6	0.0	-7.3	-9.7	-2.4
その他の製造業	-18.8	-23.1	-28.8	-20.7	-32.1	-24.0	-28.3	-19.2	-20.3	-19.6	-22.0	-26.9	-32.7	-5.8
非 製 造 業	-14.7	-20.7	-19.3	-17.5	-18.2	-21.7	-23.3	-20.0	-20.0	-22.5	-19.3	-18.4	-17.8	0.6
卸 売 業	-14.2	-20.6	-19.2	-20.0	-24.9	-24.0	-28.1	-21.5	-20.9	-22.1	-23.5	-22.8	-28.5	-5.7
小 売 業	-27.9	-30.3	-28.6	-28.1	-27.9	-28.1	-27.8	-25.2	-26.6	-32.7	-28.1	-28.2	-27.6	0.6
商 店 街	-23.1	-35.2	-38.7	-31.7	-30.7	-33.3	-36.8	-41.1	-37.9	-44.5	-35.1	-36.7	-36.4	0.3
サービス業	-10.2	-15.2	-14.2	-8.9	-6.8	-13.1	-17.1	-17.1	-14.8	-16.5	-8.0	-8.2	-6.4	1.8
建 設 業	-0.4	-6.7	-2.5	-3.8	-8.4	-10.5	-9.6	2.1	-3.3	-2.1	-0.8	2.4	0.5	-1.9
運 輸 業	-7.6	-16.7	-13.9	-10.5	-10.0	-27.3	-28.2	-23.7	-20.6	-23.2	-31.3	-27.9	-14.5	13.4
その他の非製造業	-7.4	-11.1	-3.7	-17.9	-11.1	-10.7	-7.2	-21.4	-22.2	-3.7	-3.8	0.0	7.4	7.4

Pick up!

「運輸業」：原油価格が前年並みの水準まで低下したことに加え、取引条件改善が進んでいる企業もあることから主要3指標全てが上昇した（景況は前月比13.4ポイント上昇）。

「繊維工業」：暖冬の影響から冬物商品の販売が低調。消費者の節約志向が続いていることや経営コストが上昇している影響等から、景況D I は前月比6.4ポイント悪化の▲33.3となった。

2. 売 上 高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.7	▲ 11.2	▲ 3.5	悪化	↘
製造業	▲ 3.6	▲ 9.3	▲ 5.7	悪化	↘
非製造業	▲ 11.0	▲ 12.6	▲ 1.6	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	電気機器、サービス業、運輸業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	化学・ゴム、鉄鋼・金属、輸送機器、卸売業、その他の非製造業			
	5～10ポイント	繊維工業、紙・紙加工品、窯業・土石製品、一般機器、その他の製造業			

表3. 業種別【売上高】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	30/12	前月比
全 体	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6	-7.7	-11.2	-3.5
製 造 業	4.1	-6.6	-8.2	-3.5	-6.3	-3.9	-7.1	-7.9	-11.1	-17.1	-3.4	-3.6	-9.3	-5.7
食料品	-4.0	-21.5	-27.8	-13.9	-20.6	-18.7	-26.5	-28.6	-31.3	-35.7	-24.8	-17.3	-21.8	-4.5
繊維工業	-13.1	-13.9	-9.7	-10.3	-17.7	-16.3	-16.0	-16.1	-12.1	-22.5	-15.3	-16.6	-23.8	-7.2
木材・木製品	-16.0	-19.4	-26.4	-20.3	-13.9	-20.5	-21.2	-23.2	-27.4	-30.7	-16.5	-12.9	-15.6	-2.7
紙・紙加工品	9.6	14.3	-23.8	-20.9	0.0	4.1	-4.4	-14.3	-8.7	-38.1	-9.1	5.2	-4.4	-9.6
印刷	-18.0	-41.0	-34.5	-19.0	-35.5	-41.7	-38.7	-38.7	-45.8	-52.4	-42.4	-34.4	-29.5	4.9
化学・ゴム	31.1	17.2	30.0	31.0	0.0	25.0	24.2	6.9	-3.4	10.4	-3.4	17.3	6.9	-10.4
窯業・土石製品	-4.4	-32.6	-27.7	-22.8	-7.4	-5.3	-10.4	-15.6	-14.6	-25.8	11.2	2.2	-7.4	-9.6
鉄鋼・金属	33.0	25.3	26.4	25.7	32.1	27.6	24.5	29.6	22.4	11.7	16.3	22.9	12.3	-10.6
一般機器	37.2	32.8	24.8	28.3	16.0	21.4	21.2	25.9	20.3	7.0	24.8	8.8	3.6	-5.2
電気機器	19.4	25.7	34.2	18.2	9.1	40.0	3.2	27.2	-9.7	15.2	24.3	15.1	24.3	9.2
輸送機器	7.3	12.5	2.4	12.1	0.0	12.2	9.8	-2.4	4.7	10.3	22.0	17.0	2.4	-14.6
その他の製造業	-7.5	-21.1	-19.2	-18.9	-32.1	-27.7	-18.9	-21.2	-25.9	-19.6	-12.0	-13.4	-19.3	-5.9
非 製 造 業	-3.4	-16.8	-16.4	-13.3	-13.7	-17.4	-19.7	-10.8	-13.6	-17.3	-5.6	-11.0	-12.6	-1.6
卸 売 業	6.0	-11.4	-11.4	-6.4	-18.9	-14.8	-21.0	-1.8	-7.4	-17.1	1.0	-6.5	-20.1	-13.6
小 売 業	-8.0	-18.6	-16.0	-25.2	-26.6	-23.7	-28.4	-9.5	-13.9	-23.7	-13.0	-27.7	-30.6	-2.9
商 店 街	-16.5	-33.3	-41.0	-21.5	-18.1	-29.1	-26.4	-34.2	-39.7	-41.3	-23.5	-29.1	-33.4	-4.3
サ ー ビ ス 業	-8.0	-22.0	-19.4	-6.7	-5.1	-15.3	-17.5	-21.1	-13.0	-14.1	2.9	-1.1	6.1	7.2
建 設 業	-3.8	-10.6	-5.4	-14.7	-8.5	-8.9	-11.4	1.2	-5.0	-4.2	0.4	3.0	3.3	0.3
運 輸 業	20.6	-0.8	-10.7	0.0	3.1	-12.8	-10.7	-5.3	-8.4	-8.6	-10.9	-7.7	-2.3	5.4
その他の非製造業	-7.4	-18.5	0.0	7.1	7.4	-3.6	0.0	10.7	-22.2	14.8	26.9	29.6	11.1	-18.5

Pick up!

「電気機器」：受注状況が好調であり前月比9.2ポイント上昇。収益状況も改善しているが、人手不足による受注断念や運送需給逼迫に伴う出荷困難化等の声が聞かれ、景況感は3.1ポイント悪化。

「鉄鋼・金属」：半導体、スマートフォン、自動車関連部品等の受注量が低下。人手不足や原材料費高騰の影響も大きく、前月比10.6ポイント悪化。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 0.5	悪化	↘
製造業	▲ 16.8	▲ 18.8	▲ 2.0	悪化	↘
非製造業	▲ 18.4	▲ 17.7	0.7	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器、運輸			
	5～10ポイント	紙・紙加工品			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	繊維工業、窯業・土石製品、卸売業、建設業、その他の非製造業			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	30/12	前月比
全 体	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-19.0	-17.7	-18.2	-0.5
製 造 業	-8.6	-15.2	-15.8	-13.7	-14.5	-13.5	-16.9	-18.1	-19.0	-24.7	-18.5	-16.8	-18.8	-2.0
食料品	-16.1	-25.0	-29.8	-23.1	-24.6	-23.7	-28.1	-37.2	-33.9	-36.2	-31.6	-25.5	-27.7	-2.2
繊維工業	-18.8	-23.0	-15.3	-17.5	-25.3	-27.9	-25.6	-24.2	-22.6	-33.1	-25.8	-23.1	-30.1	-7.0
木材・木製品	-24.4	-29.7	-32.3	-31.3	-20.9	-25.9	-32.7	-25.0	-23.9	-34.2	-31.4	-25.7	-22.4	3.3
紙・紙加工品	-14.3	-38.1	-57.1	-54.1	-36.4	-41.6	-39.2	-42.8	-52.2	-52.3	-50.0	-52.6	-43.5	9.1
印刷	-19.7	-27.9	-26.2	-22.3	-37.1	-33.4	-38.7	-43.5	-52.5	-52.5	-40.7	-37.7	-36.1	1.6
化学・ゴム	-6.9	-3.4	-3.3	-13.8	-17.2	-5.6	-17.2	-31.1	-31.0	-41.4	-44.9	-31.0	-27.6	3.4
窯業・土石製品	-8.8	-29.6	-28.4	-15.4	-14.2	-9.1	-14.0	-16.3	-15.4	-25.7	-7.5	-10.3	-15.7	-5.4
鉄鋼・金属	5.7	7.2	6.6	5.0	7.9	5.6	5.0	14.1	2.8	-0.8	3.7	7.9	3.6	-4.3
一般機器	17.7	14.1	8.0	8.9	8.8	8.4	5.3	4.5	8.9	-3.5	2.7	-1.7	-5.5	-3.8
電気機器	13.9	8.5	15.8	3.0	0.0	3.4	3.1	-3.0	-16.1	3.1	3.1	-6.0	9.1	15.1
輸送機器	-4.9	0.0	7.4	7.3	-2.5	12.2	-2.5	-9.8	-11.6	-5.1	-9.8	-14.6	-19.5	-4.9
その他の製造業	-18.8	-21.1	-21.1	-20.8	-26.4	-22.2	-20.7	-21.1	-20.3	-25.5	-24.0	-28.9	-25.0	3.9
非 製 造 業	-14.1	-22.0	-21.8	-17.8	-19.1	-24.9	-25.7	-21.4	-22.0	-25.4	-19.3	-18.4	-17.7	0.7
卸 売 業	-11.5	-17.4	-15.5	-16.8	-19.8	-22.1	-27.1	-13.6	-18.1	-20.8	-16.3	-14.9	-20.6	-5.7
小 売 業	-21.7	-27.7	-29.2	-27.8	-26.1	-28.9	-31.6	-25.2	-25.2	-35.6	-28.4	-28.0	-28.0	0.0
商 店 街	-23.2	-35.2	-38.7	-25.1	-25.0	-27.8	-32.5	-36.0	-34.2	-40.7	-26.7	-29.8	-29.7	0.1
サ ー ビ ス 業	-12.3	-19.9	-17.5	-10.7	-13.1	-24.8	-21.4	-21.9	-18.4	-21.5	-10.2	-12.5	-7.8	4.7
建 設 業	-3.0	-8.4	-8.0	-7.1	-11.0	-15.2	-13.9	-6.9	-12.6	-7.2	-5.0	-2.5	-8.3	-5.8
運 輸 業	-11.4	-26.5	-27.0	-19.5	-21.6	-34.8	-33.6	-31.2	-29.0	-33.3	-39.9	-31.8	-13.0	18.8
その他の非製造業	-11.1	-25.9	-14.8	-14.3	-11.1	-14.3	-7.2	-17.9	-25.9	-7.4	-7.7	0.0	-7.4	-7.4

Pick up!

「紙・紙加工品」：段ボール箱等の需要が堅調。段ボール原紙価格値上げ前の駆込需要やパルプ価格の値下がり等も追い風となり前月比9.1ポイント上昇。但し、マイナス43.5と全業種の最低値を継続。

「卸売業」：消費者の節約志向が強まっている環境下において、暖冬や営業日数低下等のマイナス要因の影響も受け、主要3指標が全て悪化。収益状況DIは前月比5.7ポイント悪化した。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.8	▲ 10.6	▲ 0.8	悪化	↘
製造業	▲ 7.9	▲ 9.4	▲ 1.5	悪化	↘
非製造業	▲ 11.4	▲ 11.5	▲ 0.1	悪化	↘
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	2.8	2.9	0.1	上昇	↗
製造業	3.2	3.5	0.3	上昇	↗
非製造業	2.6	2.4	▲ 0.2	悪化	↘
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.2	▲ 6.3	▲ 0.1	悪化	↘
製造業	▲ 5.1	▲ 5.2	▲ 0.1	悪化	↘
非製造業	▲ 6.9	▲ 7.1	▲ 0.2	悪化	↘
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 1.8	▲ 3.7	▲ 1.9	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 8.3	▲ 8.8	▲ 0.5	悪化	↘
製造業	▲ 4.6	▲ 6.2	▲ 1.6	悪化	↘
非製造業	▲ 11.2	▲ 10.8	0.4	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 3.7	▲ 5.4	▲ 1.7	悪化	↘
製造業	▲ 2.9	▲ 2.5	0.4	上昇	↗
非製造業	▲ 4.9	▲ 9.9	▲ 5.0	悪化	↘

~~Calendar 2019 国内外の主なトピックス（平成31年1月）~~

1月4日（金）

米中貿易摩擦や欧州の政治不安など海外情勢に対する懸念等から、大発会の日経平均株価が急落。終値は1万9561円96銭と2万円の大台を割り込んだ。

1月8日（火）

12月消費者態度指数（内閣府）：3カ月連続低下の42.7で、2016年11月以来の低水準。基調判断は「弱い動きがみられる」で据え置き。

1月9日（水）

11月の毎月勤労統計調査（厚生労働省）：物価の影響を加味した実質賃金は前年同月比1・1%増え、4カ月ぶりのプラス。

1月10日（木）

11月の景気動向指数速報値（内閣府）：一致指数が前月比1.9ポイント低下の103.0と2カ月ぶりに低下。景気の基調判断は「足踏みを示している」に据え置き。

1月16日（水）

12月国内企業物価指数（日銀）：前年同月比で1.5%上昇の101.5。前年実績を24カ月連続で上回ったが、伸び率は11月確報値から0.8ポイント縮小。原油価格の下落や米中貿易摩擦に伴う商品市況悪化で伸びが鈍化。

1月16日（水）

11月の機械受注統計（内閣府）：「船舶・電力を除く民需」の受注額は前月比0・02%減の8631億円。2カ月ぶりのマイナスとなった。

1月18日（金）

12月全国消費者物価指数（総務省）：生鮮食品を除く総合が101.4と前年同月比0.7%上昇した。上昇は24カ月連続。

1月23日（水）

日銀金融政策決定会合（展望レポート）

1月31日（木）

鉱工業生産指数、住宅着工統計等発表

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年12月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-17.6	-11.2	-18.2	2.9	-6.3	-10.6	-3.7	-8.8	-5.4
製 造 業	-17.4	-9.3	-18.8	3.5	-5.2	-9.4	-3.7	-6.2	-2.5
非 製 造 業	-17.8	-12.6	-17.7	2.4	-7.1	-11.5		-10.8	-9.9

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-23.8	-21.8	-27.7	8.6	-3.5	-15.2	-6.6	-12.1	-3.5
繊 維 工 業	-33.3	-23.8	-30.1	-4.0	-12.7	-20.6	-17.5	-17.4	-4.0
木 材 ・ 木 製 品	-22.4	-15.6	-22.4	-0.8	-6.9	-15.5	-11.2	-8.7	-13.0
紙 ・ 紙 加 工 品	-47.8	-4.4	-43.5	13.1	-4.4	-21.7	0.0	-26.1	4.3
印 刷	-45.9	-29.5	-36.1	-19.7	-24.6	-19.7	-29.5	-23.0	-4.9
化 学 ・ ゴ ム	-13.8	6.9	-27.6	6.9	-17.2	-10.3	3.4	10.3	13.8
窯業・土石製品	-16.4	-7.4	-15.7	19.4	-1.5	-8.2	-3.7	-7.5	-12.7
鉄 鋼 ・ 金 属	6.5	12.3	3.6	10.1	0.7	6.5	15.9	8.0	5.1
一 般 機 器	2.7	3.6	-5.5	-1.8	1.8	1.8	0.9	2.7	2.7
電 気 機 器	15.1	24.3	9.1	-3.0	0.0	-3.0	33.3	15.2	33.4
輸 送 機 器	-9.7	2.4	-19.5	-9.8	-2.5	0.0	7.3	2.4	-4.9
その他の製造業	-32.7	-19.3	-25.0	0.0	-5.8	-9.6	-11.5	-5.7	-5.8

(非 製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-28.5	-20.1	-20.6	3.3	-12.1	-9.4		-4.7	-14.0
小 売 業	-27.6	-30.6	-28.0	-0.9	-12.9	-19.4		-14.8	-8.8
商 店 街	-36.4	-33.4	-29.7	-4.3	-10.5	-19.7		-9.2	-6.8
サ ー ビ ス 業	-6.4	6.1	-7.8	4.6	-2.2	-8.1		-9.5	
建 設 業	0.5	3.3	-8.3	2.1	-2.5	-2.1		-8.3	
運 輸 業	-14.5	-2.3	-13.0	14.5	0.0	-9.9		-23.6	
	7.4	11.1	-7.4	0.0	0.0	-3.7		7.4	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平成 30年 12月 末現在)

(単位: %)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全 体		7.5	67.4	25.1	19.8	49.2	31.0	9.3	63.2	27.5	12.1	78.6	9.2	2.2	89.3	8.5	3.7	82.0	14.3	13.3	69.7	17.0	5.7	79.8	14.5	10.0	74.6	15.4
製 造 業		7.4	67.8	24.8	19.9	50.9	29.2	9.4	62.4	28.2	10.2	83.1	6.7	1.9	91.0	7.1	4.7	81.1	14.1	13.3	69.7	17.0	7.8	78.1	14.0	10.9	75.7	13.4
非 製 造 業		7.5	67.2	25.3	19.7	48.0	32.3	9.2	63.9	26.9	13.6	75.2	11.2	2.4	88.0	9.5	2.9	82.7	14.4	0.0	0.0	0.0	4.1	81.0	14.9	8.5	73.0	18.4

(製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食 料 品		3.0	70.2	26.8	14.6	49.0	36.4	7.1	58.1	34.8	12.1	84.3	3.5	1.0	94.4	4.5	3.0	78.8	18.2	10.1	73.2	16.7	6.1	75.8	18.2	10.1	76.3	13.6
繊 維 工 業		2.4	61.9	35.7	7.9	60.3	31.7	5.6	58.7	35.7	7.1	81.7	11.1	1.6	84.1	14.3	2.4	74.6	23.0	6.3	69.8	23.8	4.0	74.6	21.4	12.7	70.6	16.7
木 材 ・ 木 製 品		4.3	69.0	26.7	17.2	50.0	32.8	6.9	63.8	28.3	9.5	80.2	10.3	0.9	91.4	7.8	0.9	82.8	16.4	6.9	75.0	18.1	3.4	84.5	12.1	10.3	66.4	23.3
紙 ・ 紙 加 工 品		0.0	52.2	47.8	21.7	52.2	26.1	8.7	39.1	52.2	26.1	60.9	13.0	4.3	87.0	8.7	8.7	60.9	30.4	17.4	65.2	17.4	4.3	65.2	30.4	21.7	60.9	17.4
印 刷		0.0	54.1	45.9	6.6	57.4	36.1	1.6	60.7	37.7	0.0	80.3	19.7	0.0	75.4	24.6	0.0	80.3	19.7	3.3	63.9	32.8	0.0	77.0	23.0	4.9	85.2	9.8
化 学 ・ ゴ ム		6.9	72.4	20.7	27.6	51.7	20.7	3.4	65.5	31.0	13.8	79.3	6.9	0.0	82.8	17.2	0.0	89.7	10.3	17.2	69.0	13.8	17.2	75.9	6.9	24.1	65.5	10.3
窯 業 ・ 土 石 製 品		9.7	64.2	26.1	29.9	32.8	37.3	14.9	54.5	30.6	20.9	77.6	1.5	2.2	94.0	3.7	6.7	78.4	14.9	17.2	61.9	20.9	1.5	89.6	9.0	5.2	76.9	17.9
鉄 鋼 ・ 金 属		17.4	71.7	10.9	26.8	58.7	14.5	14.5	74.6	10.9	13.0	84.1	2.9	3.6	93.5	2.9	8.7	89.1	2.2	23.9	68.1	8.0	16.7	74.6	8.7	11.6	81.9	6.5
一 般 機 器		10.9	80.9	8.2	23.6	56.4	20.0	11.8	70.9	17.3	1.8	94.5	3.6	2.7	96.4	0.9	8.2	85.5	6.4	13.6	73.6	12.7	12.7	77.3	10.0	10.9	80.9	8.2
電 気 機 器		24.2	66.7	9.1	48.5	27.3	24.2	27.3	54.5	18.2	6.1	84.8	9.1	0.0	100.0	0.0	9.1	78.8	12.1	39.4	54.5	6.1	18.2	78.8	3.0	36.4	60.6	3.0
輸 送 機 器		9.8	70.7	19.5	24.4	53.7	22.0	7.3	65.9	26.8	2.4	85.4	12.2	7.3	82.9	9.8	4.9	90.2	4.9	17.1	73.2	9.8	19.5	63.4	17.1	4.9	85.4	9.8
その他の製造業		3.8	59.6	36.5	11.5	57.7	30.8	3.8	67.3	28.8	5.8	88.5	5.8	0.0	94.2	5.8	5.8	78.8	15.4	5.8	76.9	17.3	5.8	82.7	11.5	7.7	78.8	13.5

(非製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸 売 業		5.1	61.2	33.6	18.2	43.5	38.3	9.3	60.7	23.9	20.1	63.1	16.8	1.9	84.1	14.0	2.3	86.0	11.7				6.5	82.2	11.2	5.6	74.8	19.6
小 売 業		7.1	58.2	34.7	15.3	38.8	45.9	8.8	54.4	36.8	19.1	60.9	20.0	1.2	84.7	14.1	3.2	74.1	22.6				2.6	80.0	17.4	11.2	68.8	20.0
商 店 街		0.6	62.3	37.0	8.6	49.4	42.0	4.9	60.5	34.6	8.0	79.6	12.3	0.6	88.3	11.1	2.5	75.3	22.2				2.5	85.8	11.7	6.8	79.6	13.6
サ ー ビ ス 業		9.6	74.5	16.0	27.0	52.1	20.9	11.7	68.8	19.5	9.2	86.2	4.6	3.5	90.8	5.7	2.5	86.9	10.6				4.3	81.9	13.8			
建 設 業		11.3	77.9	10.8	22.5	58.3	19.2	6.3	79.2	14.6	7.9	86.3	5.8	2.9	91.7	5.4	2.9	92.1	5.0				4.2	83.3	12.5			
運 輸 業		9.2	67.2	23.7	25.2	47.3	27.5	14.5	58.0	27.5	16.8	80.9	2.3	6.1	87.8	6.1	4.6	80.9	14.5				4.6	67.2	28.2			
その他の非製造業		11.1	85.2	3.7	25.9	59.3	14.8	11.1	70.4	18.5	7.4	85.2	7.4	0.0	100.0	0.0	3.7	88.9	7.4				7.4	92.6	0.0			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30年 12月 末現在)

〔全 国〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
業 種									
全 体	7.5	67.4	25.1	19.8	49.2	31.0	9.3	63.2	27.5
製造業	7.4	67.8	24.8	19.9	50.9	29.2	9.4	62.4	28.2
非製造業	7.5	67.2	25.3	19.7	48.0	32.3	9.2	63.9	26.9

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	9.0	61.2	29.9	16.9	51.1	32.0	-15.1	11.5	27.0
製造業	9.0	58.6	32.3	21.1	44.4	34.6	-13.5	14.3	29.3
非製造業	9.0	63.4	27.6	13.1	57.2	29.7	-16.6	9.0	24.8

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県

〔北海道・東北地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	5.5	66.9	27.6	15.7	48.9	35.4	-19.7	6.1	61.0
製造業	4.7	66.1	29.1	11.8	51.2	37.0	-25.2	4.7	59.1
非製造業	6.0	67.2	26.8	17.9	47.7	34.5	-16.6	6.8	62.1

〔中国地方〕
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	8.3	71.5	20.2	26.4	43.4	30.2	-3.8	12.8	24.0
製造業	9.8	71.4	18.8	25.9	42.9	31.3	-5.4	8.9	27.7
非製造業	6.9	71.5	21.5	26.9	43.8	29.2	-2.3	16.2	20.8

〔関東・甲信越地方〕

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	8.1	68.5	23.4	21.3	48.9	29.8	-8.5	9.8	61.8
製造業	7.5	70.9	21.6	22.0	52.2	25.7	-3.7	8.6	63.8
非製造業	8.6	66.8	24.6	20.9	46.5	32.6	-11.7	10.7	60.4

〔四国地方〕

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.7	63.7	29.6	15.6	53.1	31.3	-15.7	5.6	29.1
製造業	4.9	67.9	27.2	9.9	64.2	25.9	-16.0	4.9	22.2
非製造業	8.2	60.2	31.6	20.4	43.9	35.7	-15.3	6.1	34.7

〔東海・北陸地方〕

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

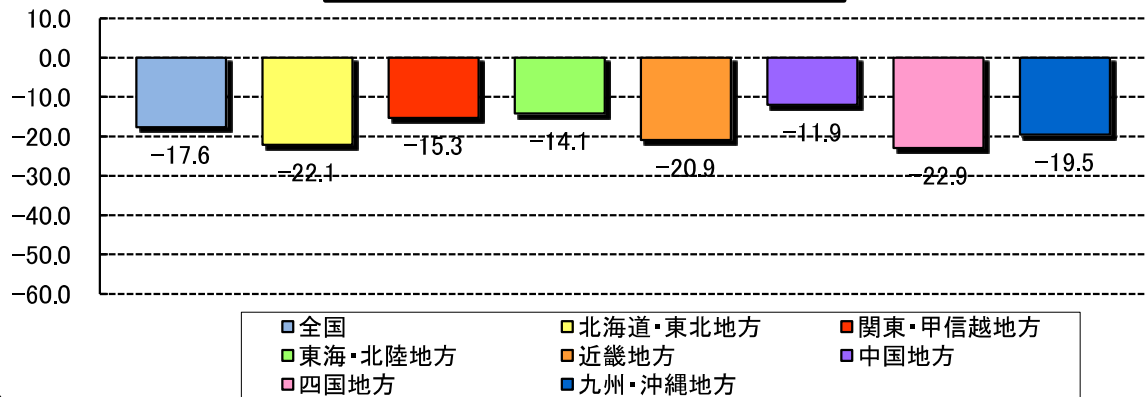
項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	9.3	67.4	23.4	22.9	52.7	24.4	-1.5	10.5	66.3
製造業	10.4	65.6	24.0	24.5	55.2	20.3	4.2	12.5	62.5
非製造業	8.1	69.0	22.8	21.3	50.3	28.4	-7.1	8.6	70.1

〔九州・沖縄地方〕

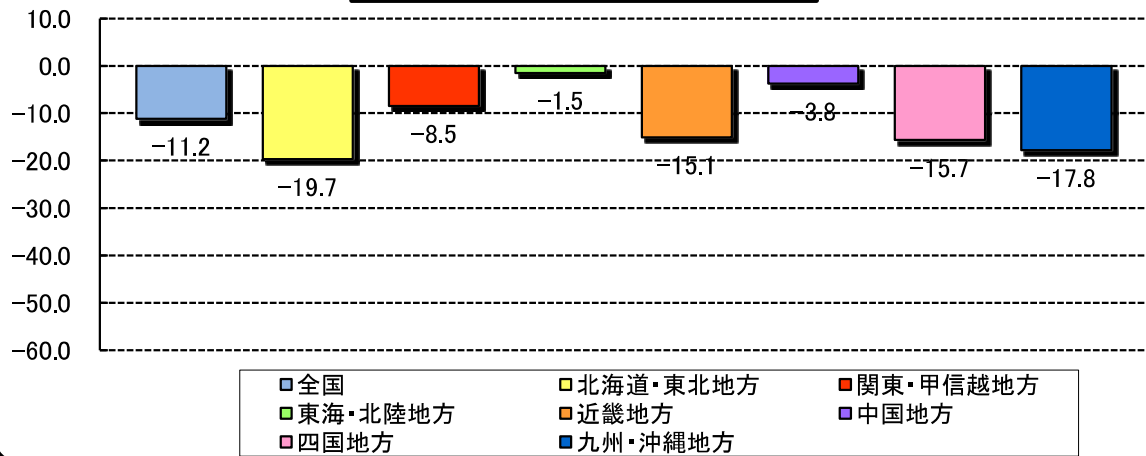
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	5.2	70.1	24.7	17.5	47.1	35.3	-17.8	7.9	64.9
製造業	4.1	71.6	24.3	16.9	47.3	35.8	-18.9	9.5	29.1
非製造業	6.0	69.1	24.9	18.0	47.0	35.0	-17.0	6.9	25.8

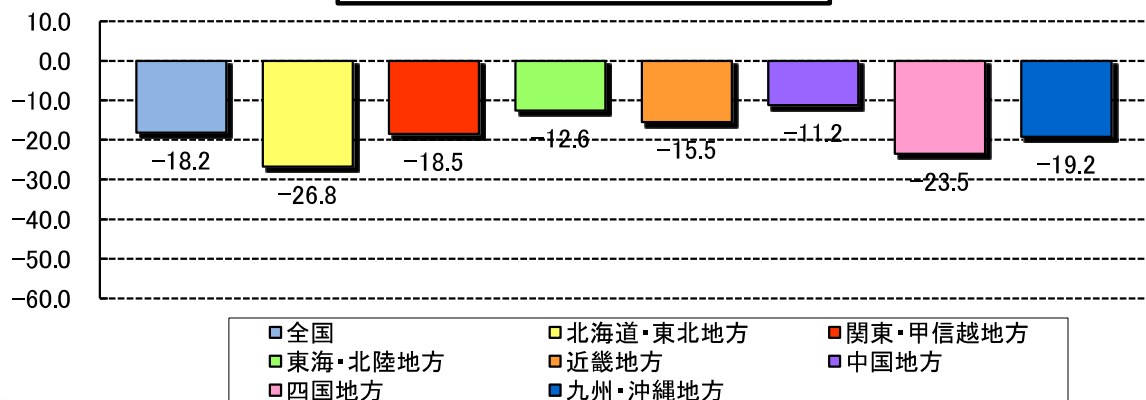
全国及び各地域別の【業況DI(全体)】
(平成30年12月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年12月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年12月末現在・前年同月比)

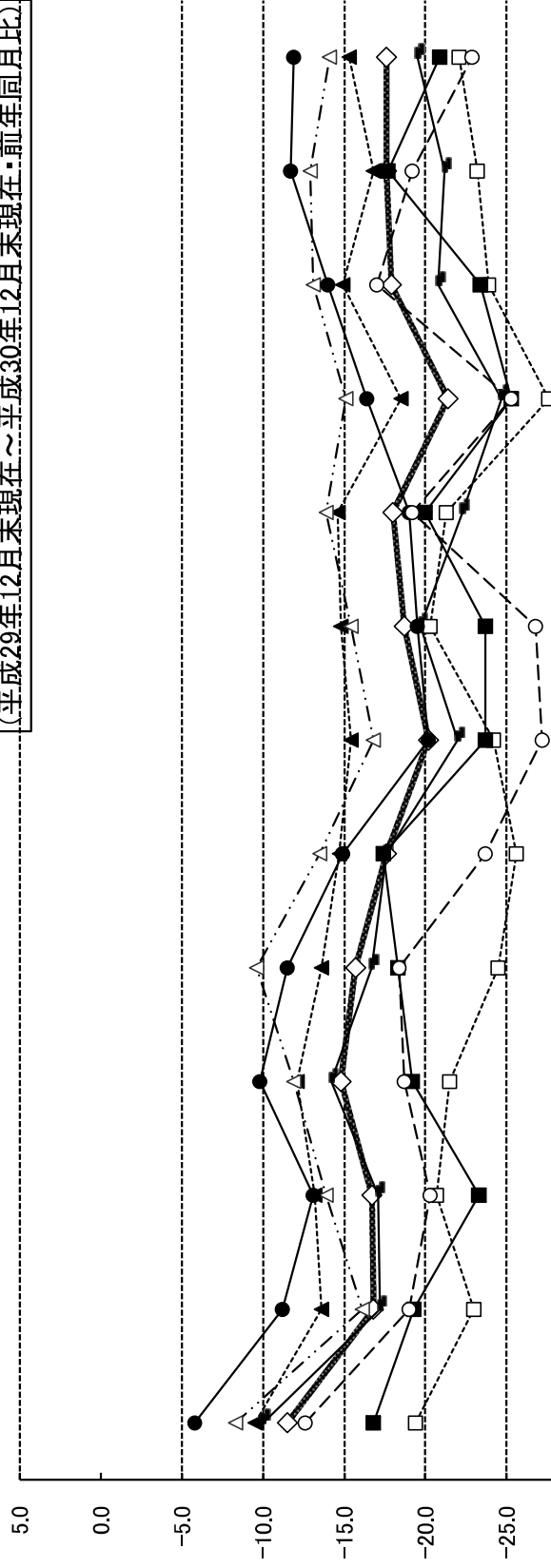


〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕
〔東海・北陸地方〕
〔近畿地方〕
〔中国地方〕
〔四国地方〕
〔九州・沖縄地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
徳島県、香川県、愛媛県、高知県
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】

(平成29年12月末現在～平成30年12月末現在・前年同月比)



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
系列1	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9	-17.6	-17.6
系列2	-19.4	-23.0	-20.7	-21.5	-24.5	-25.6	-24.2	-20.3	-21.3	-27.6	-23.9	-23.2	-22.1
系列3	-9.5	-13.6	-13.2	-12.1	-13.6	-14.7	-15.4	-14.8	-14.6	-18.5	-14.9	-16.8	-15.3
系列4	-8.3	-16.1	-13.9	-11.9	-9.6	-13.5	-16.8	-15.4	-13.9	-15.1	-13.1	-12.9	-14.1
系列5	-16.8	-19.3	-23.3	-19.2	-18.3	-17.4	-23.7	-23.7	-20.0	-25.3	-23.4	-17.7	-20.9
系列6	-5.8	-11.2	-13.1	-9.8	-11.5	-14.9	-20.2	-19.5	-19.0	-16.4	-14.0	-11.7	-11.9
系列7	-12.6	-19.0	-20.3	-18.7	-18.4	-23.7	-27.2	-26.8	-19.2	-25.3	-17.0	-19.2	-22.9
系列8	-10.0	-17.2	-17.1	-14.2	-16.7	-17.6	-22.0	-19.7	-22.3	-24.7	-20.8	-21.2	-19.5

〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県
〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
〔中国地方(系列6)〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
〔四国地方(系列7)〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. **＜北海道 飲料＞**
比較的穏やかな天候が続き、ボーナスの平均支給額も昨年より多いと聞いていたが、消費者の財布のひもは意外に固く、特に年末商戦では期待したほどの伸びはなかった。
2. **＜宮城県 酒造＞**
清酒需要の減退傾向が明らかになってきた。最需要月である12月もここ数ヶ月の減少傾向が続いている。宮城県産酒は好調な出荷を続けてきたが、昨年度頃から全国の傾向と変わらなくなってきた。
3. **＜群馬県 その他の食料品製造業＞**
年末の荷動きは前年を若干下回る。小麦粉・そば粉の値上げを販売価格に転嫁できず値上げ交渉も難しいなど、厳しい状況が続く。
4. **＜香川県 冷凍食品＞**
10月の冷凍食品生産数量は4カ月続けて昨対割れ。暖冬のためか季節商材の落ち込みが大きい。資材や副原料に加え、物流費・人件費・産廃費などが高騰しており、あらゆる面で見直しが必要となっている。
5. **＜佐賀県 菓子製造＞**
原材料、物流、人件費関係など製造コストは上昇しており、何とか売上は前年並み程度だが、コストはアップしているので、経営環境は厳しくなっている。
6. **＜沖縄県 豆腐・油揚げ＞**
12月になっても暖かな日が多く、鍋ものが少ないため売上が減少。大きな変動ではなく徐々に減少している。12月に1軒廃業した豆腐店があるが、後継者がいない高齢者であり、他にも予定者がいる。

繊維・同製品製造業

7. **＜東京都 ニット製品製造業＞**
消費者の節約志向は相変わらず続いており、衣料品の動きは総じて鈍い。経営者の高齢化と後継者不足により、事業の縮小や廃業をする組合員が増えている。
8. **＜東京都 織物製造業＞**
ファストファッション店等の国内進出により、織物（繊維）業界の老舗や百貨店等の伝統あるアパレル企業が苦戦している。産地組合への影響も大きい。
9. **＜石川県 織物業＞**
石油価格が安値に転じたものの、織物原材料にはすぐには反映されず高値とまり。加えて生産関連資材、流通コストの高騰に対する適正な価格転嫁は難しく、採算性は非常に厳しい状況が続いている。
10. **＜大阪府 靴下製造業＞**
年末にようやく寒波が来て冬らしくなったが、暖冬の影響で冬物のタイツや防寒商品が不調で前売り（店頭）が良くない。
11. **＜愛媛県 タオル＞**
依然として消費マインドが上がらず、問屋・百貨店・小売店の販売状況は厳しい。また、主力となるギフト需要も低迷している。
12. **＜熊本県 ニット製品製造業＞**
暖冬の影響で衣料販売店の冬物は厳しい商戦となった。熾烈な価格競争による納入単価下落に加え、人手不足による人件費高騰や運搬費の上昇などで収益が大幅に悪化している。

木材・木製品製造業

13. **＜青森県 製材業＞**
県内の新築住宅は大型工務店が主流で、地元の大工・工務店の仕事は大幅に減少。大手工務店の使う製品の大半は外材であるため、地元の製材所は量産できないことから厳しい状況が続く。
14. **＜秋田県 一般製材＞**
先月同様、製材用の原木が慢性的に足りない。原木の質の低下により、伐採量は増えても合板、バイオマスに流れ、ますます山の手入れが行われなくなり、悪循環に陥っている。
15. **＜群馬県 製材業・木製品製造業＞**
原木の単価上昇のため採算が悪化。また、原木の出荷量が少ないため、設備操業の低下と生産の低下が目立つ。
16. **＜東京都 建具製造業＞**
再開発や五輪関連の需要が増大しているものの、中小企業は総じて低価格競争を強いられる等、厳しい状況が続いている。深刻化する人手不足に加え、資材価格の高騰もあり、今後を不安視する組合員が多い。

17. < 神奈川県 家具 >
住宅着工は横這い局面だが、小売・造り込み家具ともに売上は厳しい。不振の中、従来好調だった脚物家具まで減少している。不振が定着し、企業は得意分野に絞り込んだ対策を強めている。
18. < 岡山県 製材 >
原木の出材期の中、最近まで7月豪雨被害もありやや少ない状況であったが、12月は好天続きで例年並みに回復傾向。災害復旧向けの引き合いもあることから、スギ、ヒノキとも総体的に強含み。

紙・紙加工品製造業

19. < 群馬県 紙製容器製造業 >
段ボール原紙価格値上げによる駆け込み的な需要があり、操業度や売上増加に貢献。しかしながら、全体的に不調で業況感にばらつきがある状態に変わりはない。
20. < 岐阜県 機械すきと紙 >
数か月前より「コストアップ」がより広範囲の資材に及ぶようになってきた。社内合理化等々で吸収できる範囲を超えており、収益に悪影響を及ぼす状況。
21. < 愛知県 段ボール >
クリスマス、年末需要もあり、段ボール会社の仕事状況はまずまず。引き続き需要は堅調に推移している。
22. < 大阪府 古紙収集加工業 >
段ボール関係は製紙メーカーがフル操業となっており、発生量は伸びている。輸出価格も過去に無い高値で推移したが、中旬から急落している。
23. < 愛媛県 機械すきと紙 >
原燃料・物流費等のコストアップの中、ティシュペーパーを中心に、家庭紙大手メーカーが価格修正に取り組んでいる。一部で、売価上昇の成果が出始めている。
24. < 鳥取県 パルプ・紙・紙加工品製造業 >
年々先細りの状況に変化は見られず、業界全体に活気が見られない。円高定着で輸出製品もかなり減少し、小ロットのものが多く、引き合いも低価格の製品が多く、採算的に難しい対応を強いられている。

印刷

25. < 秋田県 印刷・同関連業印刷 >
印刷需要の点数・量とも回復していない。元号の変更、消費増税に伴う数量減が続いている。1月から用紙・諸材料の値上げが実施されるが、低価格の発注・受注は依然として改善されていない。
26. < 東京都 金属印刷業 >
他素材容器（紙、PET等）との厳しい競争の中、少ロット、多品種化によるコストアップが続いている。また、ガス、電気、諸資材の価格高騰により収益も悪化している。
27. < 神奈川県 印刷 >
製紙各社から一方的に値上げの通知があった。需要が減少している中での用紙価格の引上は、さらなる需要の減少に大きく影響を与えることは必須であり、電子媒体への移行に拍車をかけることに繋がる。
28. < 滋賀県 印刷・同関連業印刷 >
12月は年末年始分の仕上げで多忙であったが、年明けからは小ロットの年度末需要対応となる予定。1月から紙が大幅に値上げされるので、価格に転嫁できなければまわっていかない。
29. < 島根県 印刷 >
製紙メーカーの値上げ（2019年1月1日出荷分）を受け、価格に転嫁しなければ利益が無くなるとの声が多いが、過当競争の中値上げは困難。
30. < 徳島県 印刷・同関連業印刷 >
例年12月は繁忙期のはずだが今期は一向に忙しくならない。パッケージ系の印刷物の受注は例年並みだが、情報伝達を目的とする印刷物は明らかに減少している模様。

化学・ゴム

31. < 愛知県 高圧ガス >
価格は正が済んだガスもあるが、全般的に納入価格は安定している。出荷総量の変動もない。一部会員には後継者問題で廃業に至るケースがみられた。
32. < 京都府 プラスチック製品製造業 >
自動車の先端部品の製造先は順調であるが、従来製品の部品や電気・電子部品等製造先は減速、鈍化気味の足踏み状態で越年した。
33. < 奈良県 プラスチック >
まずまずの業況で、年を越しそうである。今後、消費税増の影響は懸念されるが、引き合いは活発な状況が続いている。
34. < 島根県 プラスチック製品製造 >
米中貿易戦争の余波を受け、中国向け産業機器の輸出が減少したことから、その関連部品の生産が減少傾向。客先の生産金額自体が減少となっている。

35. < 岡 山 県 ゴム >
業界の景況感は良く、依然操業度は高い。しかしながら引続き原材料は高い水準のままであり、残業・人員増加による労務費増などにより収益状況は厳しい。
36. < 広 島 県 工業用ゴム製品 >
引き続き高操業の状況にあるが、人手不足が深刻化している。改正入管法により外国人労働者の規制が緩和されたが、対象職種の拡大を期待する。

窯業・土石製品製造業

37. < 埼 玉 県 窯業・土石製品製造業 >
去年は、年度をまたぎ、2、3、4月頃までは悪い状況が続いていたが、それ以降は例年並みに戻ったと思われる。
38. < 東 京 都 セメント製品製造業 >
各地域とも出荷が好調。反面、輸送力不足等により納期の設定が困難である。
39. < 徳 島 県 生コンクリート >
12月の出荷数量は、新たな新規工事の減少により対前年同月比7%の減少。販売価格については、価格見直しにより上昇したが、原材料費が上がり利益増にはつながっていない。
40. < 愛 媛 県 石材加工 >
依然として事業者の好況・不況の二極化がある。好況組は単価の低価格化へ取り組み、前向きな姿勢が見られるが、不況組は旧体制の延長での取組みが多い。
41. < 佐 賀 県 窯業・土石製品製造業（陶土） >
全体的に依然として悪化の一途でかなり厳しい状況。中でも低価格帯（薄利多売）の部分が、稼働日数の減少に大きく左右され、収益、資金繰りに大きな影響を受け厳しい様に感じる。
42. < 大 分 県 コンクリート製品 >
災害復旧工事に今年度工事分も加わり、売上高と設備操業度が上昇に転じた組合員が多く見受けられたが、直面する人材不足による工事不落等の影響や、将来の景気減退感を懸念する声も聞かれてきている。

鉄鋼・金属製造業

43. < 千 葉 県 鉄工 >
米中の貿易摩擦の影響で受注量に陰りが見え始めた業態もある。中国で生産量が落ち込み、国内企業の慎重姿勢が表れている。一方、働き方改革を見据えて受注を調整せざるを得ないケースも散見される。
44. < 東 京 都 ダイカスト製品製造業 >
好調だった海外向けの自動車関連製品の落ち込み等により売上が減少している。収益面では、労務費や製造原価の上昇に加え、エネルギーコストも増加し、厳しい環境になっている。
45. < 富 山 県 めっき加工業 >
電子部品関連は、好調だったスマートフォン関連に減速感が出始め、更に米中貿易摩擦の影響もあって、春まで苦しい見込み。機械関係は、工作機械が中国輸出関連を中心に減速が鮮明。自動車も同じ。
46. < 和 歌 山 県 金属製品製造 >
人手不足を少しでも埋めようと、外国人技能実習生を採用しようという動きが出てきている。仕事はあるが人手が足りないので、仕事を受注できないという深刻な現状を表している。
47. < 香 川 県 鍍金 >
二段階、三段階の原材料、副資材の値上がり、売上高に対して徐々に影響。物流に係る経費は特に目立っており、業界として加工賃のアップを要望したいところではあるが、思うようにいかない。
48. < 山 梨 県 金属被覆・彫刻業・熱処理業 >
半導体関連は、受注が大きく減少した。来年の消費税増税後は更に厳しい状況になると懸念している。

一般機器製造業

49. < 山 形 県 その他の電気機械器具製造業 >
精密機械部品の受注量が昨年秋から増加し順調に推移。また、AI関連商品の受注量も順調に推移している。今後、オリンピック関連設備が終了してくるのでこれからの動向を注視している。
50. < 群 馬 県 その他の汎用機械・同部分製造業 >
円高基調による原材料価格の高騰、短納期要請、人手不足の状況が続く。人手不足は仕事の受注ができない状況。機械設備等の納品にいままでの2倍ほどの日数がかかり問題となっている。
51. < 福 井 県 機械工業 >
前月に引き続き受注状況は好調を維持しており、主だった変化は感じられない。経営上の課題として、人手不足への対応、原材料の仕入れコスト高が挙げられる。
52. < 長 野 県 一般機械器具製造 >
生産にブレーキをかける取引先が少し増えている。中国・北米の景気が後退しつつあることの影響。農機具等の受注は好調。印刷機械関連は減少。自動車関連も中国の新車販売が前年割れで先行きは厳しい。

53. <大阪府印刷製本機械製造業>

販売先にもものづくり補助金を獲得した企業が多く受注状況が大きく好転しているが、メーカー自身の設備投資や雇用の増大を図れないため大幅な納期伸ばしとなっている。

54. <大分県カメラ部品>

カメラ部門は来年3月までは減産計画(派遣やアルバイト人員の削減実施で対応する計画)。自動車部門では慢性的な要員不足。人材の集まりが悪いため、今後は実習生を増員する計画。

電気機器製造業

55. <山梨県電気機械器具製造業>

受注は確保できているが、人手不足により残業等が増加。売上高の増加以上に人件費が高んでいる。

56. <静岡県電気機械器具製造業>

引き続き業務用空調機の生産は高水準で推移している。また家庭用空調機の生産立ち上りも早まる計画であり、組合員の繁忙状態は継続している。

57. <愛知県配電盤>

受注は来年3月末までは100%。中には生産できないため断っている会社もある。一方、運送需要が逼迫しており、製品が出荷できず困っている会社がある。

58. <京都府電機機械器具製造業>

受注増に伴う負荷上昇と部材調達の遅延により客先納期対応が困難な状況に至っており、納品遅れが発生。要因は、負荷に対応すべき人材の慢性的な不足であり抜本的な対策が見出せない状況。

59. <兵庫県電気機器製造業>

国内自動車販売は減少したものの、米国の自動車販売台数は、減税効果で個人所得が増え、需要を刺激したことやガソリン価格の低下などにより前年同月比1.5%増加した。

60. <福岡県電気機械器具製造業>

産業用ロボット関連は、依然国内外とも好調に推移しており、来月度以降の増産を期待している。

輸送用機器製造業

61. <東京都自動車部品製造業>

働き方改革対応のため、時間外労働時間の削減を雇用拡大でカバーしており、人件費の増加が収益悪化に繋がっている。

62. <静岡県輸送用機械器具製造業>

一部の組合員企業ではアメリカと中国の貿易戦争の影響が生じており、今後の動向次第では景気に悪影響を与える一因となる可能性がある。

63. <静岡県輸送用機械器具製造業>

四輪の販売は好調で、生産も多忙な状況が続いている。引き続き人手の確保に課題を抱えている。

64. <三重県輸送機器>

全体としてはほぼ前年並みの稼働であった。1月以降の計画数が当初予定よりも大幅に減少した製品があるなど、年度末に向けての在庫調整が早くも始まっており、全体的に景気の後退感が強くなっている。

65. <愛媛県造船>

造船業界は2016年度から未経験の大不況に突入した。需給バランスが崩れており、中国造船の安値受注や韓国政府の保護的支援により船価の改善は不透明。今後も競争は一段と厳しくなることが予想される。

66. <愛媛県造船>

出入国管理法の改正により、下請け企業から帰国間近の実習生の希望確認と調整の問合せが頻繁にあり、外国人労働者への関心が高まっている。

その他の製造業

67. <東京都靴製造業>

秋冬物の納品が早めに終了し、春物の納品スタートまでの端境期となり、つなぎ資金の調達に四苦八苦している。T P P及び日EU・E P A発効の影響が、どのように業界を圧迫するか戦々恐々としている状況。

68. <神奈川県工業中心の複合業種>

相変わらず受注量は増しているが、短納期、利益薄、人材不足は変わらず、各企業も四苦八苦している状況。従業員の残業、休日出勤が増やせない中、厳しい状況は解消されない。

69. <富山県漆器製造業>

業界の景況の悪化や、組合員の高齢化により、組合脱退希望の声が聞こえ始め、今後、組合員数の減少が進む。

70. <石川県プラスチック製品製造業>

製品価格の見直しや価格転嫁が出来ない上、更に運送費の高騰もあり、困っている。人手不足は深刻で、省力化・省人化・自動化の必要性は認識しているが、先行きが不透明なため、踏み出せないでいる。

71. < 兵 庫 県 その他製造業 >

春の釣りシーズンに向けて各社は売上増加を図る工夫をしているが、一般消費者の購買意欲や業界の動向は必ずしも良好とは言えない。今年度は新年号の制定や消費税アップ等で激変の年になりそう。

72. < 和 歌 山 県 和雑貨製造業 >

組合員は、環境変化への対応が厳しく求められている。また、運送会社から時間厳守を求められている。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品>
少雪・暖冬傾向の状態が年末年始と続き、業界全般的には衣料卸などで売上が伸びていない。1月後半から始まる冬イベントにおいても、長引く少雪や暖冬はかなり影響が出てきそう。
74. <東京都 繊維卸売業>
暖冬から急激に寒くなったことにより、秋冬物の売れ行きが悪い。前年割れの組合員が増加している。
75. <神奈川県 料理材料卸>
昨年と比べ営業日数が2日少なかったこともあり、売上は減少。外食業界では年末らしさが徐々に薄くなっており、大型の忘年会の数も減少傾向にあり、通常月と変わらない状況にある。
76. <新潟県 花卉卸売業>
暖冬の影響により先月末に入荷が集中し、今月の入荷数量は減少。小売店は寒波到来の予報などから仕入れを控える傾向にあり、入荷減、単価安となり売上が落ちた。
77. <岐阜県 陶磁器>
12月は需要期であるが、例年と比べて景況感に乏しく、売上高は低迷している。
78. <高知県 青果卸売業>
野菜、果実ともに販売環境の悪化に歯止めがかからず、入荷減、単価安と最悪の状況であった。とりわけ販売金額については、昨年の反動もあり、昨対比80%前後と超低水準となった。

小売業

79. <岩手県 野菜・果実小売業>
クリスマス・年末商戦で、素材から調理して食卓に並べる時代から、出来上がった食材を提供することへの変化を大きく感じる。
80. <福島県 共同店舗>
賞与や帰省客効果も数日間だけであった。消費者は必要なもののみ購入する傾向にあり、支出引き締めが感じられる。歳末セールは毎年実施しており、前月比は良いが、前年比較では売上が減少している。
81. <茨城県 県南地区共同店舗>
暖冬の影響なのか、冬物衣料の売上が苦戦した。特に、婦人服では前年同月比89.3%と、90%を割り込んでしまった。全体の売上は、衣料品・雑貨の不振により前年同月比98.5%と減少した。
82. <東京都 衣料品小売業>
節約志向が高まったため、クリスマスセール等が不発で、売上高は落ち込んだ。
83. <山口県 化粧品小売業>
暖冬のせいか売上は微増。最近メーカーが売れる店、売れない店と差別化している様子が見られる。例えば美容部員の入店回数やサンプルの量など。春の新商品の予約活動を開始した店もある。
84. <長崎県 食肉販売>
当月は通年損益の要と位置づけされる月でもあるが、臨時アルバイトさえ応募者がいない状況が続き、人員不足の中での売り損ないが多発した。業界にとってこの問題はますます深刻化してきている。

商店街

85. <宮城県 大崎市>
商店街イルミネーション点灯や割増商品券の発行、それに絡めた売り出しを企画して商店街の活性化に取り組んでいるが、基本的な中心商店街の勢いがいないことから、その力強さは感じられなかった。
86. <秋田県 鹿角市>
商店街では、暖冬とあって、衣料品の冬物の出足が今ひとつの感があつた。消費者に買い控えの傾向が見られる。
87. <千葉県 柏市>
12月の前半は毎年その傾向が強くなっているが、師走の賑わいは全く無くなってしまった。食品スーパー関係の店でも例年と比べ周辺にスーパー・SCが増えたことによる競争激化により苦戦を強いられた。
88. <石川県 金沢市>
恒常的なセールが量販店、そしてネット販売で行われている。中心商店街にあるような店舗ではよほど特色がない限りは12月に売上を上げていくというのが難しくなっているのが現状かと推測する。
89. <兵庫県 豊岡市>
先月に続き、暖冬の影響もありファッション関係を中心に、ボーナス、クリスマス、歳末セール等の盛り上げに欠け、全く低調で期待外れの12月だった。消費者動向の変化をつくづく実感する。

90. < 香 川 県 丸亀市 >

12月が「かき入れ時」だったのは、はるか昔の事だが、今年の消費業況は特にひどい惨状であり、食料品関係でも「とにかく悪い」という声を聞いた。12月は「売れる特別な月」ではなくなった。

サービス業

91. < 宮 城 県 ソフトウェア >

ソフトウェア業界では、改元対応、消費増税・軽減税率関連の期限付き対応、クラウド、IoT、AI等、話題が多くあるが、業界全体として人手不足が解消されず思うように進んでいない状態。

92. < 宮 城 県 廃棄物回収 >

他業種同様人材不足は深刻で、運転手確保が厳しい状況が続いている。燃料費は原油価格が下がっているため、前月より安値で推移している。

93. < 栃 木 県 ビルメンテナンス業 >

人件費及び派遣人件費が増える傾向は変わらず、収益状況は悪化している。

94. < 神 奈 川 県 温泉旅館・ホテル >

好天が続き、入込客数・団体を含む宿泊客数とも順調に推移した。ただ、人手不足は宿泊業界も同様の課題となっており、施設により受客を抑制するケースもあった。

95. < 高 知 県 飲食店 >

繁忙期の本月だが、月初の集客が悪く、売上が前年割れした店舗が多かった。県全域でその傾向がみられ、業界の景況が悪化した。

96. < 大 分 県 広告 >

原材料の値上げによる利益率の低下と売値の上昇によるロットの減少が景況を悪化させている。運送便の全体的な遅れにより、リードタイムの長期化も良くない。

建設業

97. < 群 馬 県 解体工事業 >

前月からの河川の工事解禁とホテルのリニューアル工事や空き家解体、ブロック塀解体工事のため業況はやや好転しつつある。人手不足は組合員同士で発注し合って解消している。

98. < 神 奈 川 県 空調設備工事 >

年末年始と仕事量が多いが、人手不足が未だに大きな問題になっている。その為に工程遅れが出ている。今後、今以上に深刻になっていくと思う。

99. < 山 梨 県 型枠大工工事業 >

年末から年明けに向けて大型物件が公共、民間工事ともに予定があるが、人手不足による人件費や材料価格の高騰に対し、工事単価の上昇が小さく収益を圧迫している。

100. < 静 岡 県 電気工事業 >

住宅需要が堅調であり、また工場設備投資の増加に伴ない電気工事の需要が増加したが、人手不足が顕在化しつつある。対応策として、業界内の女性活躍の推進方法を模索している。

101. < 愛 知 県 左官 >

12月に入り、急に来年の仕事量が増え出した。しかし材料の高騰に施工予算がついていけず、厳しい状況になりつつある。人材は相変わらず不足している。

102. < 京 都 府 職別工事業 >

慢性化してきた技術者・技能者不足により、当業界だけでなく各業界とも技術者・技能工の対応・対策に困っている状況は変わらない。

運輸業

103. < 栃 木 県 一般貨物自動車運送業 >

年末の繁忙期であり、荷動きは非常に活発であった。荷主との運賃交渉により、運賃価格が上昇した事業所も増加している。燃料価格も前月比で7円程度値下げとなり、コスト削減となった。

104. < 岐 阜 県 軽運送業 >

12月に入っても物流の流れは良く、受注件数が増加しているが、相変わらずドライバーが不足している状況が続いている。

105. < 三 重 県 トラック >

荷主各社への取引環境、取引条件等の改善に僅かながら効果がでてきている。

106. < 香 川 県 タクシー >

乗務員不足が深刻化しており、輸送需要が集中する午前中や夕方の時間帯など配車依頼に十分に対応できていない状況。お客様の待ち時間が長くなるケースやお断りするケースがある。

107. < 宮 崎 県 軽貨物運送業 >

年末の繁忙期の関係で、仕事量は増加傾向で推移している。取引条件も時代にあった契約金額で取れる環境ができあがっており、売上増に繋がっている。

108. < 鹿 児 島 県 運輸・倉庫業 >

食品や雑貨は例年並みの物量だったが、繁忙期の期間が短くなっている。長距離運行の備車確保が難しい状況であるが、燃料価格は若干低下傾向で収支は上向きになっている。

その他の非製造業

109. < 神 奈 川 県 歯科技工 >

各事業所に収益の差がでた月であった。ITを利用した先進機器のデジタル化が進み、設備投資をしていた事業所は収益が上がっている。

110. < 神 奈 川 県 不動産 >

賃貸に動きがでている。来年秋に消費税が上がるので、その前に物件を購入したいと相談に来る方も多く、新築よりも中古戸建をリノベーションした安価な物件を紹介してほしいとの要望が多い。

111. < 兵 庫 県 社会福祉・介護業 >

依然として職員の確保が困難な状況にあり、在籍の職員の負担が増加している。そういった中で実習生の受入れを考慮する法人が見受けられるようになっている。

112. < 岡 山 県 信用組合 >

災害復興に関連して、業種ごとの特徴を感じる。一方で豪雨前から計画されていた工事等（住宅新築も含む）に遅れが発生しているケースも散見され、意外な影響も出ている。

113. < 鹿 児 島 県 建築設計監理業 >

本年度の特例交付金で幼稚園及び小・中学校の普通教室の空調設備に補助金がついたため、各市町村から膨大な設計業務が発注されており、設備関係事務所は多忙を極めている。

114. < 鹿 児 島 県 石油販売業 >

車両の燃費改善等により、店頭販売の減少基調が続いている。季節商品の灯油も暖冬の影響を受け、大きく減少している。また、深刻な人材不足にも悩まされており、コストアップは避けることができない。